

令和7年 神奈川県議会 第1回定例会 厚生常任委員会

令和7年3月3日

◆鈴木ひでし委員

私から今日、最初、医療局あまり発言の場がないので。最初、予算が済んでいないんでしょうけれども、未病センターというのをちょっとお聞きしたい。懐かしい言葉だね、未病センター。市川さんという局長のときに私が丁々発止でやつて、こういうものは要らないんじゃないかと散々騒いだ未病センターが、とうとう予算がつかなくなってしまったという感じに見えるんだけれども、今年自体は令和6年度の予算で5万5,000円でノボリが8万2,000円ついていると。私は、このそもそも未病センターって最初に造ったときに、どのぐらいのお金をかけて今日まで来ているんですか、総額。ざっくりでいいですよ。

◎健康増進課長

未病センターは、設立当初平成27年、28年当時、地方創生交付金500万円掛ける7自治体を1年やりまして、その後20万円の備品費だったりを出しておりますので、500万円掛ける7ですので3,500万円。それから備品、消耗品費として20万円を数自治体。それから、自治基盤強化総合補助金等の活用も数年、一、二年ほどやってございますので、4,000万円弱が設備の初期経費、要は、健康関係の機器を置くための経費と当初のランニング、ほんのちょっとですけど、ランニング分を一、二年出していたと。すみません、本当にざっくりで大変恐縮なんですが。

◆鈴木ひでし委員

私は、市川さんとの論戦を終えて、かなりの年数になるから今さらなんだけれども、これ見ていて、どんどん利用者、私からするとこの31万5,000人って、一体どんなふうにして集計したのかなと、逆に思う。その未病バレーというのとそっくりだよ。どこが何だか分からぬ。本当に使っている県の施設がどれぐらい入っているのか分からぬのと似ていて、31万5,000人ぐらいが24年に使いましたと。ただ、これだけあなた方やるのであるならば、未病センターの中に心の未病と入れたほうがいいんじゃない。どうですか。せっかくここまでつくったあなた方が、わざわざこんなに元気ありましたというんだったら、心の未病って今一番大事だよ。それこそ国家的な問題になっているよ。神奈川県としてせっかくここまでやるんだったとしたら、そういう機能をここに入れて、もう一度大々的に宣伝されたらいかがかと思いますが、いかがですか。

◎健康増進課長

未病センターの中には、健康状態をはかる機能を、いろんな機械を入れて設置していただいておりまして、民間企業様の中には、先生御指摘のような心というか、ストレスをチェックするような機器を入れているようなところ。それから、ちょっと変わりますけれども、MC I、いわゆる、すみません、言葉が、認知症の軽度認知症の部分、そういうものをはかる、心だったり精神だったりという

のをはかる機器を置いているところ、公設でもストレスチェック等やっているところもございますので、委員の御指摘、未病センターの担当者会議というのを開いておりますので、そういうった場所で共有しながら、検討といいますか、情報共有していきたいと思います。

◆鈴木ひでし委員

情報共有はいいからやってほしいんだよね。

何でなのかというと、これで予算が、大した予算もつかなくなってきていて、だけど、あなた方はこうやって公募選定しているわけじゃない。その割には、今自宅で血圧計なんて持っていない人ほぼいないんじゃないの、本当に。私もアップルウォッチついているけど、これだってそのうちもう間もなく血圧だって測れるような時代になって、いつまで未病センターなんてやっているんですかと。

私なんか今回なくなると思っていたんだよ。だって、未病カルテがなくなる、廃止になると、廃止って言いなさいって言ったら廃止って言わなくてさ、知事がどうのこうのみたいな言い方していたけれども、結局はどうするのか私知らないけど、基本的には予算なんか大してつくような形にはならないんでしょう。

私、未病センターということについて、時代に合わせたものを造らないと、せっかくここまで数千万つぎ込んだものであるならば、これはやっぱりリーダーとして、きちんとしたある意味結果を出すようなものにしていかなければ、何のために今まで引っ張ってきたんですかと。私からすると、大したこんな予算も何もついていないようなところに、何でこんな残しているのと、私、実は質疑をしようと思ったのよ。ところが、具体的には、今、心の未病という方がすごく多いというお話をともに、これ国でも大変な問題になっている。

今、課長さんがおっしゃった、それは民間等々とかMC Iとか言ったって、それをわざわざ未病センターに行って、見つけて云々かんぬんなんてところじゃないじゃない。基本的に、しっかりと検討していただきたいと思いますが、いかがですか。

◎健康増進課長

まず、委員おっしゃられたとおり、時代に合わせた形に変わっていくということは、本当に重要だと思っております。未病センターの担当者会議でも、どんな機械を入れていますかという情報交換を横のつながりとしてやっておりまして、また、どういう形でやったら安くできる、安くできるというか、こういう助成金が活用できるよとか、そういう情報も踏まえていろいろやらせていただいております。

例えば、骨密度がやはり女性の課題だよねということで、幾つかの市町村さんは骨密度を測ろうとか、そういうたようなこともやっておりますので、心・ストレス、非常に重要だと思いますので、それはきっちりと市町村、民間と連携してできる施策を考えてまいりたいと思っております。

◆鈴木ひでし委員

具体的にそれをやっていただきたい。今あなた骨密度と言ったけれども、そん

なことをやっているんだったら、そんな機械置いているところないよ。全然ないとは言わないけども、何も未病センターにそんなところまで置いておくんだったら、私もつといっぱい行くと思うよ、人が。それは血圧と内々に測るんだったら別に薬局屋に行くかなんか。それこそ最近は、もうドラッグストアで野菜とか何でも売っている時代だから。そのついでに寄る人はあったとしても、私は少なくとも公のところで測っていたりする人は見たことがありません。今まで視察で行ってきて。その中で、しっかりと見ていただきたいと思います。

二つ目には、私、昨年3月14日予算委員会で、足立原局長も、当時私は厚生の委員じゃなかったけれど、人の裏に隠れて4億5,000万も使う保健福祉大学大学院ヘルスイノベーションセンターじゃない、ヘルスイノベーション、何というか忘れました。また今年もこれについている。

私も昨年首藤さんが出て答弁した中に、相も変わらずこのホームページは同じことしか書いていないんだよ。こういうときに、具体的に、私3年間使って、3年目に私今までずっと見てていたけどって首藤さんに言って、しっかりとホームページ等々の中で県民に伝えていくと、こういうふうに答弁をしているわけ。

ところが、今少なくとも私の見ているホームページ、この大学院見た限りでは何ら変わっていない。これどうしたら。4億5,000万だぜ。4億5,000万円もお金かけて、こんな私からすると、県民にこのホームページに、そもそもが県立保健福祉大学の中にあって、検索したってあまり出てこないんだよ。大学院というのが分っていたら、そこに大学院と入れれば出てくるけど、保健福祉大学しかメニューが出てこないんだよ。その中に、大学院というようなものは、私はほぼ、多くの県民の方知らないと思う、大学院なんてあること自体。そこに4億5,000万なんてお金が使われているなんていうのは。これどうしたら、ホームページなんかそういうふうに分かりやすく変えていくと言ったって、全然変わっていないんじゃない。入試だ、いわゆる私たちがやってきたことだって、ここに書いたって私何も感動もしなければ何も勉強にならない。これ何で。何年たっても変わらない理由は何ですかという質問です、最初は。

◎保健医療人材担当課長

地域の住民に、身近な市町村や企業の連携といったしましては、保健医療福祉の頼りになる研究を行いまして、県民の皆様に対して、その知見や成果を還元していくことというのは、大変重要なことだと考えております。

ホームページ等での広報の発信についてですけれども、今年度、ホームページの構成を見直しております。まず、大学のホームページのトップページに、取組の大きな柱の一つである研究につきますタブを設けまして、トップページからすぐにアクセスできるように改善を図るとともに、直近のトピックですとか、研究実績が分かりやすく閲覧できるように、ホームページの改修を行いますとともに、内容を充実してございます。

◆鈴木ひでし委員

だから私も見たよ。見たけれども、例えば研究課題といったって2ページぐらいところにこういうふうにしか書いていないよ。あなた見た、課長さん。初めは

ちゃんと見て、これこれこういうことがあって、こういうような発見して、起承転結なここのところにきちんと書かれているなら私もそれは認めましょう。ただ、それが本当に県民のためになるかは話は別だよ。まず第1段階として、あなたがここで言っている研究課題だなんだというのは、中には1ページしかない人もいるよ。これどういうことなの。

私からすると、この中で首藤さんが答えてているのは、維持費なんだって書いてあるんだよ、4億5,000万の大半が。そうしたら、それこそ成果なんて25名ぐらいしかいない、二十七、八名かな、入れても。前期、後期。それだけの人のために、4億5,000万の金って何でこれ使っているの。いっそのこと無駄を省くといつたらやめちゃえばいいじゃん。自ら言っているんだからさ、失礼ですけど、中井のほうはまた後日やるけど、そっくりだよ。つくるだけつくっておいて、あと中身は何も分からぬというのは。ああでもない、こうでもないと我々、それも分からぬんだよ、みんな要するにどこに隠れているのか、4億5,000万が。こればっか見てきたからさ。もうどうなっているんだといって、私は局長から、昨年の予算委員会ではきちんと保健福祉大学のほうで、講師をきちんと派遣するような形でやると言ったけど、相も変わらずここに出ているのは、自分が決めたテーマだ何だ、そんな何で、申し訳ないですけれども汎用性のないテーマに対して、起承転結が書かれていないようなものをここでやっている、そんないっぽい人が見るはずないじゃないですか。

あなた自体が今答弁していること自体というのは、ホームページが変わった。変わったことは認めるよ、だから。私が言っているのは充実ってどうなんだと言っている。3年前から言っていることはどこ行っちゃったのと言っているの、これ。やめちゃいなさい。もういっそのこと。それも競争率だってほぼないんだから。25名ぐらいとか、二十六、七名ぐらいしか来ないんでしょう、ずっと流れを見ていると。入試自体だって。そんな今、大学なんかどこだってみんな大変だと言っているんだから。4億数千万もの金、誰も分からぬ中で、私本当に知らないところの大学院なんてあること自体がSHIなんです。議員だから私は知っているけどさ。

これ二つ質問させてください。

一つは、このホームページってどのようにこれから変えていくのか。要するに、県民の方たちに分かりやすい。何を県民が求めているのか。私、昨年の予算委員会でも言ったけれども、公衆衛生と書いてあったってどこにもないじゃん、あそこに公衆衛生なんて。公衆衛生のためにつくった大学院じゃないの、これ。ところがどこにもないよ、相も変わらず。とんちんかん申し訳ないですけれども、どこどこ、あそこに行って何々しましたなんて、そんなこと別に大学院じゃなくたってやっていますよ、ほかで。どうしてこんなにいつまでたっても変わらないの、これ。あなた課長さんとして大学にいるわけじゃないから、それこそ首藤さんでも来てここに、答弁してもらうのが一番いいんだろうけれども。これ、どうするのこれ。私との約束だよ、これ。それがいまだに変わっていないってどういうことなの、これ。1年間でたった、同じ3月ですよ、3月14日に質問したとおりなっていないじゃん、これどういうこと。4億5,000万もかけて。

◎保健医療人材担当課長

まず、ホームページについて先生おっしゃったのは、教授ごとに作成している研究活動報告書のことかと思います。この研究活動報告書とは別に、県がシンクタンク機能を担うイノベーション政策研究センターのプロジェクトにつきましては、それぞれプロジェクトごとに研究のテーマですとか、研究の実績といったものをグラフなどを用いまして、分かりやすく表現をするように努めているところでございます。

それから、また、今年度から県民への見える化といたしまして、一例といたしまして、今年度キャンパスが立地します川崎市殿町地区に集積する企業、ヘルスケア運営に係る関係者の活動の成果ですとか、最先端の知見を共有する場として、ヘルスイノベーション・カンファレンス殿町 2025 というものを開催いたしました。

2日間にわたりまして、多彩なテーマを扱うシンポジウムですとか、講演会、それから情報交換会を行いまして、約 170 名の皆様に御参加いただいておりまして、メディアにも取り上げられたところでございます。

こうした取組を進めて、県民の皆様に分かりやすい情報発信に取り組んでまいりたいというふうに考えています。

◆鈴木ひでし委員

私はそんな各論にまで入っていないよ。各論の前の総論の話をしているんだよ。そんな各論で私が各教授ごとに何々しろなんて、一言も言っていないよ。ところが、あなたもう一度見直してごらんなさいよ。各教授がそんなテーマにしたって、こんな1枚ぺらでもって書けるんだから、誰だって書けるというんだよ。今殿町はって言っていたけれども、殿町のもの自体はほかの方たちだって持っていると思いますよ。それを何でわざわざ 4 億 5,000 万もかけた大学院がやらなきゃいけないの。ほかにやることないんですか。

公衆衛生なんて、私も先日、ある新聞に載った国が出している危険病原体研究ということで、感染症の脅威に対応強化というのが出ていて、国のお金をかけて薬の開発とか、海外頼みの脱却を図るために、国が相当なお金を出して長崎のほうの大学にこれ頼んだようです。こういうようなアカデミックなことが何で出でこないの。4 億 5,000 万という維持費が大変なのか。ここにもっと乗せればこういうふうになるのか、明確にしてよ。公衆衛生って書いてあるんだから。今やることいっぱいあるよ、これだけの問題いっぱい抱えていて。どうですか。

◎健康医療局長

大きな総論としてお答えさせていただきます。

委員御指摘のとおり、保健福祉大学のうち S H I 、ヘルスイノベーション研究科には 4 億 5,000 万円の維持費がかかっています。大きく、4 億 5,000 万のうち 4 億ぐらいは本当に維持費なんですよね。場所代と教授等々職員の人工費でございます。

これをどう還元するかというお話だと思いますが、よく我々申しているように、3 本立てでございます。一つは研究、研究で還元する。もう一つは人材育成、

その生徒25人をしっかりと役立つ人間に育てていって、神奈川県に還元してもらう。それから三つ目、ちょっと小さいですけれども地域貢献。地域の子供たちとか、先ほど言ったのも含めて地域に還元する。こういったところでしっかりとそれをやっていきつつ、私個人も中身はすごくいいことをやっていると思っておりますし、例えばコロナのときの感染動向の分析ですとか、あるいは、何度か御答弁させていただいた、下水を取って、下水からコロナを分析する疫学調査、こういったところしっかりと実績を残してきたと思っています。

また、公衆衛生という意味では、市町村が自分のところの健康行政、どうやつていこうか、これをしっかりと分析してあげて、市町村に対して還元する。こういうこともやっていますので、こういったところをしっかりと分かるようにしていかなきゃいけないというのは、そのとおりだと思います。

ホームページもしっかりと改修はしてきたんですけども、私も何度か見させていただいて、ちょっとまだだなというところはございます。

それから、研究概要といえばアニュアルレポートというんですか。実はすごくいいものがあるんですよ。昨年1年こういうことをやってきましたと、結構分かりやすく書いたものがあるんですが、結構深いところにあるんですね。具体的に、そういうのところしっかりと分かりやすいところに載せる。こういうところも含めて、委員からの意見も含めて、県からしっかりと大学に伝えてまいりたいと考えております。

総じて、4億円以上の予算をかけて、人材を育成して研究をしているということは間違ひございませんので、これがしっかりと、まず県民の方に分かるように改めてしていく。これを1年たってまだまだ足りないんじゃないかなと、そういう厳しい御意見いただきましたので、もう一回練り直して、しっかりと見える化していきたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

今、局長の答弁いただいたけれど、私は県民に還元するという中で、人材育成もそうだけれど、留学生の方も中には入っている。また、県外からも相当来ているらっしゃるんでしょう。一体、神奈川県民として県民税を払って、なつかつ、法人税等も払っているような方々に、本当に目に見えるような形にしないと、私こそまさしく断捨離だと私は思っているんですよ。

それは局長のお立場からすれば、ホームページもいまいちだと、いまいちどころじゃ、私は全然駄目だと思っているけれど、そういうものじゃなくて、もう一度例えば人員から何から、きちんとしたそういう一つの論理として成り立つような成果というようなものをきちんと出さないと、私はとにかく断捨離やれたほうがよろしいということだけ言っておきますよ。時間も時間ですからその辺にしておきますが、取りあえず私は先ほどの未病、そしてこのSHIということに私すごく、本当に失礼ですけど、何年前から追いかけてきたものですので、もう一度そこの変化するところを見てみたい思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

最後に私が聞きしたかったのは、こちらの社会的養育推進計画の中でちょっと聞かせてください。

まず第一に、12 ページですけれども、子供の意見を聞き代弁するというアドボカシー、ありがとうございます。いろいろまた推進していっていただいて、私も経験者の一人として大変うれしく思っています。

その中で、子供のホットラインの相談件数もひっくるめて、9時から 20 時、電話による相談というような形で書いてありますけれども、相談しやすい体制と、こう書いてあるけれども、これどういうふうに相談先に周知しているんだろうなと、ちょっと私心配になりますて、その辺どうでしょうか。

◎子ども家庭課長

この人権・子どもホットラインのほかにも、いろいろと子供さんが直接相談する先というのはございますけれども、まず周知、今現状ですけれども、いじめですか虐待、あるいはホットライン含めて、毎年県内の小中学生、あるいは高校生、全ての子供たちに対して年1回カードを、ほんの小さなこのぐらいのカードですけれども、それを配布させていただいて、そこに連絡先が全部書いてあるんですけれども、それを配布している。全体で96万枚ほどですが、それを配布している状況です。それ以外にも、県のホームページ等にも掲載させていただいている、そういういた状況でございます。

◆鈴木ひでし委員

逆にこれは、教育委員会との関係はどうされていらっしゃるんですか。学校への配布とか。

◎子ども家庭課長

先ほど申し上げたように、いじめですか、いろいろ子供さんに関する困った事案というのを取りまとめているので、学校現場のところでの相談先というよりもカードに入っていますので、今青少年センターのほうで、これを教育だとか福祉だとか、いろんなところを取りまとめて最後、一つのカードにして配布しているというところで、いろいろなところの局をまたがってこの一つ、1枚を作っている、そういういた状況です。

◆鈴木ひでし委員

そうじゃなくて、それを学校にまいているのか。

◎子ども家庭課長

そのとおりでございます。

◆鈴木ひでし委員

その中で、私、意見聴取とか、下の段にあるけれども、課題というふうに書いてありますけれども、これ逆に事業に反映していく進捗状況というのを、やっぱりしっかりと出していくことがすごく大事なことじゃないかと思いますけれども、進捗状況の見える化ってどうされますか。

◎子ども家庭課長

今、今年度から事業をスタートさせたかながわ子どもの声センター、これ昨年の4月から始めていますが、おかげさまで子供たちに大変好評で、今年度4月から2月までの実績ですけれども、施設のお子さんが230人、それから一時保護所のお子さんが312名の子供たちから声を聞かせていただいております。

子供たちから、本当に気持ちが軽くなったとか、本当に来てくれてありがとうという声とか、あるいは、話すことはないのに来ちゃったみたいな。だから本当に施設ですか、日頃から顔を合わす人じやない大人が来ることに対して、すごく前向きに捉えてくれているところです。

見える化ということですけれども、我々としてはこの数字だけじゃなくて、今までに申し上げた子供の声をしっかりと、アンケートも取っていますけれども、残して、これも財産として次のステップアップに使っていきたいなと思っていますので、本当に我々としては今回この1,300万ほどの事業ですけれども、非常に有効に、これから大きく大きくしていきたいなと思っているところです。

◆鈴木ひでし委員

私、もう一つすごく課題だなと思ったのは、今朝の読売新聞の一面に虐待の疑いのある子供の一時保護について、A Iを用いてやろうと思ったけれども6割ぐらい不具合だという記事が出ていた。

私、15ページの課題という中に、大変経験の浅い職員の方が増えていると。また、その浅い職員を指導する、教育できる職員も不足しているんですけど、こういうような話が出ている。私これを見ていて、局長にお聞きするのが一番いいのか分からぬ、人事課と話しちゃいけないんでしょうけれども、これ中井の問題についても、児相の問題についても、ゼネラルな福祉職をつくるということにだけというシステムは、そろそろ綻びを生んでているんじゃないかと私は思い始めているんですよ。

何なのかというと、大変失礼な言い方かもしれないけれども、児相にしたって中井にしたって大変な、お仕事としてはつらいお仕事だと思うんです。口で言うようなものじゃない。そうなってくると、これ言い方気をつけなきやいけないですけれども、その方が何年ぐらいたま aras 次のところに行くというような流れの中にいたらば、人は絶対育っていきませんよね。やっぱりその中でしっかりと骨を埋めていく、またこの人としっかりとやっていくというようなことが、私は正直言って、一つの究極の中井の問題なのかなと思ったりしているんですよ。

この中で、私専門家として御意見いただきたいのは、そういうことから神奈川県としてスペシャリストづくりというようなことについて、しっかりと取り組む姿勢っていうのはとても大事じゃないかと思いますが、どうですか。

◎福祉子どもみらい局長

今、御質問の中でもあったとおり、神奈川県の場合、福祉職について、これら総合福祉職として採用して、これは神奈川県の職場というところは児童相談所だったり児童分野、また生活保護とかやる福祉事務所業務、それと施設系、あと

行政系というような中で、総合的な福祉職を採用して、これまで育成もしてきている。

ところが、その意味というのは、やはり例えば児童相談所で1人の児童を受けていく中では、その1人の子供のことだけじゃなくて家庭環境、背景にあるもの、様々な貧困だったりいじめだったり、いろんなことを見ていかなければいけないというところで、採用後3年から5年のスパンでそれぞれの分野を経験して、それで総合的に見れる職員を育成してきて、その後10年目以降等に分野を選択して、専門分野のほうに行くというようなやり方をしてきたんですけれども、今御指摘いただいているとおり、スペシャリストを育成していくというところ、今、様々な課題が出てきたり、御指摘あったとおり、次に異動するからいいんだというようなことがあってはならないようなものの中で、どういうような形でスペシャリストを育成していくのかというのは、今後考えていかなければいけない。しっかりと人事当局とともに含めて検討する必要があるかと思っています。

◆鈴木ひでし委員

まとめみたいになるんだけど、私、実は3年前だったかな。これはもう私の住まい横浜ですから、県に言うことでもなければ何でもないと思うんですけれども、お母様がお一人でお子さんを育てていて、それで急に、児相のほうに2人のお子さんが入所しなければならないという状態になって、お母様自分が、どこが私がいけないのかというようなことで、本当に私もう、あまりにもリアルですけれど、包丁を持って私をここで殺してくださいと言われた場面に出くわしたことがあるんですよ。そこを見ていたときに、コミュニケーションや、また説得する力とかないと、これからやっぱりそういうような、逆にやっぱり、よしとしてやる一つの手段というのがそういうような違う意味でもまた、お子様やまた保護者の方も、大変につらい思いをしなきゃならないという現場にすごく直面して、この問題って、私何度か今まで委員会に所属させていただいているから、こういう発言する機会があるんだと思うんですけど、これやっぱりスペシャリストづくりというか、その道の専門職というような方々を本当に大事にしていかないと、この問題なかなか解決していかないなという思いをしたもので、聞かせていただいた次第です。

ちょっと重たい話になっちゃいましたけれども、私本当に中井についても、今回の児相の問題についても、人づくりというところに本当に真剣に取り組んでいかないと、県は本当に大丈夫かというような思いはちょっとしまして、同時に最後まとめみたいで失礼ですが、先ほど医療局のお二人にも質問させていただいたけれども、やはり自分で生んだものは、きちんと育ててくださいと。育てないで、途中でどんどん任期が変わって、気がついてみたらこうなっていたっていうような、すごく多い、この神奈川県というところは。私そう思ってずっと追いかけているんですよ、これ。変な執念ばかり持っていますけど、起承転結ってあって自分でこういうのやりますと記者発表までしておきながら最後はどうなんだと。

先ほどの未病センターについてもそうだけれど、SHIについてもそうだけ

れども、また中井についてもそうだけれど、結局何年かしたら、十何年かしてみたらどうなっちゃったのという流れになる。このことを再度、どうかまた幹部の皆さんもひっくるめてお考えいただきたいとお願いして、質問を終わります。